



小学校での授業風景(上)、薬きょうを溶かしてつくられたやかん(左上)、ビール缶でつくられた裁縫箱(左下)

那覇市歴史博物館企画・沖縄戦展、戦後を生きる

64年前、沖縄の人たちは数か月に及ぶ日米の激しい戦闘に巻き込まれ、十数万人の尊い命が奪われました。とりわけ那覇市民は、1944年(昭和19年)の十・十空襲による被害をはじめ、県内各地を転々と移動させられるなかで、餓えや病にも見舞われ、多くの犠牲をうんだのです。

生き残った者は、肉親や友人を失った悲しみにうちひしがれ、また自らも心身ともに深い傷痕を残しながら、米軍の収容所で戦後の第一歩を踏み出しました。しかしながら、戦闘は終わっても食べる物、着る物はほとんどなく、多くの人たちが、米軍から支給されるわずかの生活用品で日々をしのぎました。

そして廃墟と化した居住地にもどるや、人々はたくましく立ち上がり、戦後を生きぬいたのです。米軍の使



勝負も応援もワッター学校が1番 ～第35回 那覇ハーリー～

沖繩の夏の到来を告げる那覇ハーリーが5月3日(日)から5日(火)までの3日間、那覇港新港ふ頭で開催されました。今年の那覇ハーリーは天候にも恵まれ、会場は多くの家族連れや観光客でにぎわいました。中でも、祭り初日に行われた中学生ハーリーには、過去最多の18校36チームが参加。友人たちや家族、学校関係者からの熱い声援を背に、各チームの漕ぎ手たちは手にする権に力を込め、自校の威信をかけた真剣勝負に挑んでいました。

4月22日(水)、国際通りで毎週日曜日に実施されている「トランジットモール」が、理想的な交通社会の実現に向けて、業績を上げていると評価され、国際交通安全学会賞を受賞したことから、那覇市国際通り商店街振興組合連合会のなかむら中村政人理事長が、翁長市長へ報告に訪れました。最近では、地域の人々が国際通りに来てくれるようになったと聞き、翁長市長は「この賞を受け、さらに地域に愛される国際通りになってほしいと思います」と、話しました。



すごいぞ!トランジットモール ～国際交通安全学会賞受賞の報告～

地域の人たちによる手作りのおまつりとして、また、うりずんの季節の恒例行事として、すっかり地域に定着した国場川こいのぼりまつりが5月10日(日)、仲井真の三角公園でにぎやかに開催されました。13回目となる今年も、地域の子どもたちによるお遊戯や琉球舞踊、バンド演奏をまつりを盛り上げたほか、仲井真中学校区の児童生徒たちによる、たくさんのお手づくりこいのぼりが大空を舞い、まつりを彩りました。



大空を彩る手作りこいのぼり ～第13回 国場川こいのぼりまつり～

「民生委員・児童委員の日」の5月12日(火)、與儀副市長へ「二日民生委員・児童委員」の委嘱状が交付されました。委嘱状交付式は、民生委員・児童委員の仕事を地域社会の方々に正しく理解してもらい、信頼関係を一層築いていくことを目的に、PR活動の一環として行われたものです。委嘱状を交付された與儀副市長は、早速、市内の國吉ツナ宅を友愛訪問。國吉さんの普段の生活の様子や趣味の事などについて和やかに談笑していました。



5月12日は「民生委員・児童委員の日」 ～民生委員・児童委員の日～

NIKKEI



情報どう、宝。

日本経済新聞は、
ビジネス・投資・資産運用・就職活動・暮らしに
役立つ「情宝」をお届けします。



朝・夕刊セット/月ぎめ購読料 4,383円(税込)

※朝刊は毎朝のお届けになりますが、那覇・浦添市以外の夕刊につきましては、翌日の朝刊と併せての配達となります。なにとぞご容赦くださいますようお願い申し上げます。

お電話でのお申し込み【24時間受付】
0120-49-3370
携帯電話・PHSからもお申し込みいただけます。

インターネットでのお申し込み【24時間受付】
http://www.nikkei4946.com/okinawa/
おはよう日経 検索



日本経済新聞沖縄現地印刷事務局